

令和 7 年度

「運営に関する計画」



大阪市立福島小学校
令和 7 年 4 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校ではこれまで、児童一人一人の人権を守り、将来に向けた自立の力を育むために、主体的な学びや態度、コミュニケーションの力を伸ばすことが、「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」を育むことにつながると仮定し、様々な取組を積み重ねてきた。また、教育活動の基盤として、児童一人一人の自己有用感を高めていくために、全員参加の授業を構築してきた。

本校では平成 27 年からの 6 年間は外国語科・外国語活動の研究に、令和 3 年度からは国語科の研究に取り組んできた。その取組を通して、児童は自分の思いや考えを表現しようとするようになってきた。「表現すること」「コミュニケーションをとること」は個々のスキルも必要であるが、学習集団としての、「何でも言える」「間違いが許される」という環境が不可欠であり、その環境を全ての教育活動を通して育んできた。

全国学力・学習状況調査や大阪市小学校学力経年調査や児童アンケート等からも、学力についての伸びが見られる。また、バスケットゴールの設置や一輪車・竹馬の更新、放課後校庭開放の実施など運動環境の整備を行ったことや、なわとび週間やかけ足週間の取組の充実などにより、体力・運動能力についても向上が見られる。

しかしながら、児童質問紙等からみられる実態としては、話し合い活動の有効性やその経験から自己有用感や自尊感情の高まりを児童が感じ取るには至っておらず、自分の考えや思いを自分の言葉で表現したり、考えの違いを認め合ったりする経験を積むことが必要であることが明らかになった。そこで、今年度から 2 年間にわたり、学級活動を本校の研究領域と位置づけ、児童が主体的に対話し、自治的・自発的な活動に取り組む態度を醸成していくこととした。

学力の向上に向けて

- 学習集団全員が参画した、話し合いによる課題解決学習の実施。
- 学習内容の定着と二極化の解消を図るために、個に応じた指導の充実を図る。
- 仲間意識を高めるために、
 - ・授業中に何でも言える学習集団の育成。
 - ・学校が楽しいと感じることができる、集団の育成や教育活動の創造。
 - ・積極的な挨拶の推進。
 - ・「折り合い」をつけ、合意形成をはかるための話し合い活動の推進。
- 体験や出前授業等、キャリア教育の推進。

体力・運動能力の向上に向けて

- 体育の授業を通して、運動能力の向上を図る。
- 運動に対しての主体的なかかわりを育む。
 - ・握力向上・なわとび・かけ足・みんな遊び等の場の設定。
- 病気ケガの予防。
- 残食 0 の取組。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

(1) 児童一人一人の自己有用感・自尊感情を育む。

- ① 児童が活躍できる授業の創造をする。
- ② 児童が授業中に何でも言える、環境や態度を育む。
- ③ 児童が、人のために活躍できる場の設定を意図的に行う。
 - ・縦割り班活動・地域子ども会活動
 - ・委員会活動・クラブ活動
 - ・当番活動
 - ・係活動

(2) タイムリーな生活指導に努める。

- ① 互いを認め合う学習集団を育成し、授業を通しての生活指導を推進する。
- ② いじめ・暴力等の事案に対して、児童理解を図ると共に、即時の解決を図る。
- ③ 規範意識を育む。
- ④ 日常的な児童理解に努め、生活指導事案に対して、校内で組織的な対応をし、家庭・地域とも連携して、即時の解決を図る。
- ⑤ 発達段階に応じた人権についての教育を構築し、人権にかかわる教育を推進する。

(3) 学校・地域・家庭の連携

- ① 学校の取り組みを発信し、教育活動にかかわって、家庭・地域への啓発を図る。
- ② DV・ネグレクト等の緊急な支援を要する事案に対して、学校がイニシアチブをもち、区役所・こども相談センター等との連携を図り、早急な改善を図る。
- ③ 外国籍児童の保護者と連携し、不利益を受けないようにする。
- ④ 学校の教育活動への支援体制の確立。
 - ・登下校の見守り。
 - ・行事に関わっての支援。（昔遊び・盆踊り・昔の生活体験等）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

(1) 主体的な学び・態度を育む。

- ① 児童が主体的に参画できる授業を創造する。
 - ・話し合い活動の場を設定する。
 - ・児童の創意工夫が活かされる教育活動を実践する。
- ② 児童が主体的に授業に参画できる態度を育成する。
 - ・学力の二極化の解消。
 - ・自分の思いや考えを人に伝えるスキルの向上。
 - ・放課後のステップアップ学習や区と連携した学習支援事業、家庭学習等の自主学習を通して、学習習慣の定着を図る。
- ③ 低学年からの外国語活動を構築し、英語でのコミュニケーション力を育てる。
 - ・45分間、短時間指導の充実を図る。
- ④ 豊かな心を育む場の設定
 - ・児童の読書意欲向上につなげる図書室の環境整備を図る。
 - ・出前授業・キャリア教育の積極的な導入を図る。
 - ・人の思いや考えを受け止められる心の育成に取り組む。

(2) 体力の向上

- ① 児童が主体的に体力の向上に取り組める場を設定する。
 - ・放課後等を活用して、体育の学習につなげる取組や遊びを通した体力向上を図る。
- ② 児童が主体的に健康の改善を図る。
 - ・手洗い、うがいの徹底・習慣化を図る。
 - ・食育に取り組み、残食0を目指す。

(3) 家庭における学力・体力の向上への啓発

- ① 家庭での学習習慣の確立を図る。
- ② 規則正しい生活習慣の定着を図る。

【学びを支える教育環境の充実】

(1) ICTを活用した教育を推進する。

- ① ICT機器を授業に導入し、児童の興味関心を高める授業に取り組む。
- ② ICT機器を活用して児童への理解を深める。

(2) 働き方改革を推進する。

- ① 教育活動全体の検証・改善によって教育の質を向上させる。
- ② 働き方改革の進捗状況を定期的に全体で共有し、全教職員の意識を高める。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を86%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を60%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を73%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立福島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を86%以上にする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現（いじめへの対応）】 「福島小学校はいじめを絶対に許さない」という認識のもと、大阪市いじめ対策基本方針および福島小学校いじめ防止基本方針に則り、いじめの防止・早期発見・対応に臨む。</p> <p>指標 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を99%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現（問題行動への対応）】 「楽しい学校生活をおくるために」のルールを守り、学校生活を送る児童の態度を育てるとともに、生活指導上の諸問題に迅速に対応する。</p> <p>指標 児童アンケートにおいて、「廊下・階段を正しく歩いていますか。」という質問に対して、肯定的に回答する児童を65%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現（防災・減災教育の推進）】 防災・減災教育を保護者や地域と連携して取り組み、自助・共助・公助の精神の醸成および災害に備える態度を育む。</p> <p>指標 火災・地震津波・不審者侵入を想定した避難訓練をそれぞれ年間1回以上実施するとともに、防災頭巾を活用した訓練・引き渡し訓練を位置づけ年間1回以上実施する。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成（人権教育の推進）】 道徳教育・キャリア教育・人権教育それぞれの年間指導計画のもと、児童の実態に応じた教材を選定し、指導にあたる。</p> <p>指標 人権教育実践にかかる校内研修会を年間1回以上、人権教育もしくは道徳教育（キャリア教育）にかかる教員研修を年間1回以上実施する。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成（望ましい集団活動の推進）】 特別活動（学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事）の実践を通して、児童が自主的・実践的に異学年集団の活動に取り組むことができるよう指導する。</p> <p>指標 週に1回以上のたてわり清掃、月1回以上のたてわり遊びの実施に加え、児</p>	

童会が中心となり、年間1回以上のたてわり集会活動を実施する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式2)

大阪市立福島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を60%以上にする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を73%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上（「主体的・対話的で深い学び」の推進）】</p> <p>教材研究・授業改善を通して基礎基本の定着を図り、個に応じた指導を進める。</p> <p>指標 月1回の研究の日を活用し、教材研究や個に応じた指導法に関する研修や実践交流を行うことで、基礎基本の定着と授業改善を図る。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上（言語活動・理数教育の充実）】</p> <p>学級活動を中心とした研究活動を進め、児童が話合いの中で折り合いをつけながら合意形成する経験を積み重ねることができるように指導する。</p> <p>指標 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を88%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成（体力・運動能力の向上）】</p> <p>体育科の学習や体育的学校行事を通して、児童の運動能力を高めるとともに、体を動かすことに対する興味・関心を高める。</p> <p>指標 なわとび週間やかけ足週間などの体育的行事をペア学年で実施し、ふり返りやまとめの活動を通して、自分の成長や運動の楽しさに気づく機会を設ける。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成（健康教育）】</p> <p>保健指導や学級活動での話合い活動を通して、児童が自らの健康や保健に関する興味・関心を高め、日々の生活態度につなげができるようにする。</p> <p>指標 児童の発達段階に応じた年間2回以上の保健指導を実施するとともに、各学級において年間1回以上学級活動の時間に保健を題材とした話合い活動を行う。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成（食物アレルギー対応）】</p> <p>食物アレルギー個別対応について組織的に取組を進め、すべての児童の安全管理に努める。</p> <p>指標 年間1回以上、アレルギー対応研修（エピペン研修）を実施し、個別にアレルギー対応の必要が生じた際は速やかに食物アレルギー検討会議を開催する。</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成（学校給食・食育）】</p>	

安全・安心な学校給食の実施とともに食に関する指導・栄養指導を進め、児童および保護者の「食」に対する興味・関心を高める指導を進める。

指標 児童の発達段階に応じた年間2回以上の栄養指導を実施するとともに、各学級において年間1回以上学級活動の時間に給食を題材とした話し合い活動を行う。

取組内容⑦【基本的な方向5 健やかな体の育成（清掃）】

仲間と協力して正しく清掃道具を使いながら清掃活動に取り組み、美しい学校にしようとする児童の態度を育む。

指標 週1回のたてわり清掃を含め、「そうじのてびき」に基づき毎回の清掃指導を徹底するとともに、各学級において年間1回以上学級活動の時間に清掃を題材とした話し合い活動を行う。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式2)

大阪市立福島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標	達成状況		
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く] ○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にする。 			
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況		
取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進（ICTを活用した教育の推進）】 授業の中で効果的なICT機器の活用を図ることができるように環境整備や研修等を行い、児童の主体的で対話的な学びを育むとともに、児童の端末活用率の実数の向上に努める。			
指標 端末活用率についての共通理解を図るとともに、学習用端末や学びのポータルを授業で活用するための研修会や実践交流会を、月1回以上実施する。			
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり（働き方改革の推進）】 教職員一人一人のワークライフバランスの実現をめざし、組織体制づくりを進めるとともに、超過勤務時間の削減を図り、教職員の健康管理・維持を徹底する。			
指標 月3回の「ゆとりの日（18:00）」および月1回の「定時退勤日」の設定とともに、定時退勤日は定時退勤できるよう努める。全教職員が昨年度より超過勤務時間を削減することができるようとする。			
取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり（学校運営）】 円滑な学校運営のため、教務・庶務全般において円滑で適切な処理に努めるとともに、教材教具や備品の整備や保管に努める。			
指標 毎月の企画会や職員会議に至るまでの「部会の日」を月1回以上設定し、教職員が共通理解を図る機会を確保するとともに、随時「学校行事推進委員会」を開催し、学校行事の精選と内容の見直しを図る。			
取組内容④【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり（学校事務の遂行）】 会計事務全般にわたり、円滑で組織的な事務処理を進める。			
指標 「起案は2週間前まで、遠足や校外学習の精算は当日16時まで」を徹底し、見本通りの書類を作成するとともに、児童の転出入情報を（教科書・事業担当・事務・児童会・教務）共有を組織的に図る。			
取組内容⑤【基本的な方向 人材の確保・育成としなやかな組織づくり（環境整備）】 校内の環境整備および児童の安全確保のため、安全点検を実施するとともに、遊具や備品の修繕・校内緑化の推進、植物の剪定等を進める。			
指標 校内安全点検を月1回以上実施し、校舎内外で危険個所や修理箇所が発見さ			

れた際には速やかに組織的な対応を図る。

取組内容⑥【基本的な方向8・9 生涯学習の支援・家庭や地域との連携】

生涯学習ルームとの連携を図るとともに、学校図書館の活用と充実を図ることを通して、PTA・地域・関係諸機関と連携した活動を推進する。

指標 週3回以上、図書館開放を実施し、児童の読書活動を推進するとともに、年2回以上地域団体と交流する行事を計画・実施する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点